

第4回 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 議事録

日 時：平成28年10月25日（火）10時00分～11時40分

会 場：市役所本庁舎2階 第5委員会室

出席委員：稲葉委員，籠橋委員，齋藤委員，榊原委員，本江委員（座長），鈴木委員
宮原委員（座長代理），脇坂委員，渡部委員（計9名）

欠席委員：阿部委員，黒田委員（計2名）

事務局：建設局：村上建設局長，吉野建設局次長，岡本百年の杜推進部長，
佐々木百年の杜推進課長，岡田公園課長，阿部公園課主幹兼青葉
山公園整備室長，水嶋施設管理係長，和泉青葉山公園整備室主査，
安田河川課長，杉井広瀬川創生室長（計10名）

文化観光局：柳津観光交流部長，今井観光課長（計2名）

教育局：千石生涯学習部長，長島文化財課長，渡部仙台城跡史跡調査室長
（計3名）

司 会：阿部主幹

次 第

1. 開会 資料確認等

2. 議事

青葉山公園（仮称）公園センターの計画について

- ・議論のふりかえりと意見整理について
- ・懇話会意見のとりまとめについて

3. その他

4. 閉会

1. 開会

(阿部主幹開会挨拶)

(出欠の確認)

(資料の確認)

2. 議事

○本江座長

- ・今日は4回目ということで、この公園センターの整備に関する懇話会も最終回ということでございます。
- ・今日はこのテーマ、次はこのテーマとガチガチにやるというよりは、いろいろな意見をご自由に出していただける形で進んでまいりました。現場にも行きまして、活発なご意見のやりとりができたかなと思っております。
- ・そのような進め方ではありましたが、案外みなさんのイメージが統一されて、そんなに意見が散らかって焦点が合わないということにはならず、割と良い感じで案ができつつあるのではないかなと思っております。
- ・今日は最終回ですので、新しい議題があるわけではなくて、今までの議論を振り返りながら、共有されているイメージをもう少しフィットしたりするようなことができればよろしいかなと思っております。よろしくお願い致します。
- ・早速議事に進みたいと思います。傍聴の方がいらっしゃいます。議事に先だって傍聴の方へ申し上げます。受付でお配りしました会議の傍聴に関わるルールがございますので、これを守っていただいて会議の円滑な運営にご協力をお願いいたします。
- ・それから、今日はかなり来ておられますが、報道の方についても頭撮りはここまでとして、今後の撮影は所定の場所でご協力をお願いいたします。
- ・また、会議録ですが、毎度でございますけれども、わたくし座長ともう一人委員に署名をお願いするというので、順番で今回は齋藤委員でございますので、よろしくお願い致します。
- ・では本題に入ります。今回の内容と資料は3つございますけれども、事務局からご説明お願い致します。

【議事検討内容の概要説明】

(事務局岡田課長により本日の議事について説明)

【議論のふりかえりと意見整理について】

(事務局和泉主査により資料1～3の説明)

○本江座長

- ・ありがとうございます。資料が3つありまして、資料1はこれまでの流れの確認でありますから、あまり問題はないかと思いますが、間違っている部分等どうでしょうか。
- ・メインは資料2と3についてです。概ね内容が重複しておりまして、資料2で振り返りでまとめたものをもう少し具体的なアイデアも含めて書いたのが資料3ということですので、一体で扱ってよろしいかと思います。改めて聴いていただいて、私の意見が抜けているとか、こういう話もあったのではないとか、あるいは3回目以降少し時間がありましたから、改めてこういうことがあるとか、新しいことを言うてはいけないということでもないので、またお話をいただければと思います。
- ・各委員からは、観光、歴史、ランドスケープデザイン、公共部会の運営、市民活動など、それぞれの専門のお立場もございまして、あるいは議論の中にも出てきましたけれども、広く市民のための場所ですので、皆さん仙台市の公園を利用する者としての日常的な意見でもかまいませんので、改めて一通りご覧になった上で、修正しておきたいことであるとか、加えたいこととか、あるいは大事なことなのでもう一回言いますということがあれば、伺ってまいりたいと思います。あるいは途中参加できなかったけれど、こんな話になっているが、これは何だとかいうことがあればそれでもかまいません。

○齋藤委員

- ・今、意見の振り返りを拝見して、きちんと収斂されていると思いました。資料2「機能について」の(2) 飲食・休憩機能について、修正というより、特に最近また感じたので強調になります。幅広い時間の公園利用に対応ということで、早朝の散策やランニング、特に夜間の飲食や休憩などに利用できることが必要であるということですが、基本コンセプトの市民に喜ばれるという視点をもちろん踏まえた上ですが、仙台は夜を過ごす場がちょっと弱いのかなと思います。先日東京に行く機会があったので特にそのように思ったのですが、夜間に多様な人が集って、時間を過ごす空間が東京には多いと感じました。この辺を観光の視点に立って、何らかの工夫ができる、対応した機能を持たせていただければと感じました。

○本江座長

- ・もう少し踏み込んで委員にうかがいたいのですが、夜の繁華街は想像つくのですけども、夜に公園へ行って誰が何をするのか。あまり良くないイメージしか思いつかないのですが、例えばどんなことがありますか。ここで夜も使おうということですと。

○齋藤委員

- ・夜間の利用という視点では、今思いつくものは、秋であれば紅葉とかを愛でるライトアップがあると思います。安心して歩けることが前提で、そういったものがあれば良いと思います。

○本江座長

- ・誰もいないからこっそりということではなくて、星を見るとか、虫の声を聞くとか、花火をやるとか、そんなに深夜ではないにしても、日が暮れてからの楽しみのところを提供できるようなことですね。5時だから終わりますということではなくて日没後も活動できると良いということかなとうかがいました。ありがとうございます。
- ・繰り返しとなることかまいません。ご意見ありましたらお願いします。

○稲葉委員

- ・今、夜の話が出ましたので、朝のお話もしますが、今年の3月に仙台市さんのお仕事で、町中を歩くというお仕事を手伝わせていただいた時に、朝歩くコースとして、朝の国分町を歩くという、非常にマニアックなものを行いました。振り返りとして、仙台の朝だからこれが見られるというところが、少なかったというのが実情です。
- ・土曜日にツアーを開催しましたが、平日は朝早くから営業しているパン屋、喫茶店も土曜日だから10時からとか、休みだとか、そういうことが多くて、朝が良かったという印象ではなく、これじゃ昼間と一緒にじゃないのという感想が多かったです。
- ・今回の青葉山であれば、ここから見るこの風景がとても素敵だとか、そういった自然に関する事で、朝だから良いということが出てくるのを期待しています。

○渡部委員

- ・朝の話を続けると、自然というのは季節でも変化がありますが、一日の中でも特に生き物などは朝に行動し始めることが多いですから、やはり仙台城の周辺となると野鳥などもたくさんいて、朝の活動は相当期待できると思います。
- ・私が気になったのは、資料2の1番の「エリア全体のコンセプト等」について、周辺施設の連携の拠点ということで、機能的にもつながることが重要なのですが、空間的につながること重要です。ここの文言で、「博物館と国際センターな」と書かれていますので、施設のイメージが強すぎるという感じがします。第3回の懇話会の資料で景域という話がありましたが、これくらいの大きなエリアでの連携というか、つながりであることをぜひ、文言のイメージとして、付け加えていただけたら良いと思いました。

○本江座長

- ・ここは、「施設の連携」となっていて、要するに施設は組織だから、色々な組織の縦割りを超えて、連携してやりましょうというニュアンスと、渡部委員がおっしゃる空間としての一体的な連携ということと、両方の意味で周辺とつなげていくということが必要だということでしょう。確かにこの周辺施設との連携ということだと、所掌の課を越えて連携をしっかりと、同じ場所になるのだから文字通り空間の広がり一体化ということも改めて強調されて良いと思います。
- ・施設整備のところにも一体的なデザインというものが改めて強調してございますけれども、基本コンセプトとして、そうしたものをつないでいくような役割があるだろうということですね。
- ・それで、資料3の巻末に、資料整理の色刷りのシートにコメントがついているものがありまして、これは基本的に青葉山公園に色が塗られています。本当は隣接して東北大学がございますし、遺構もあるし、周りにももっと色々なものがあって、勿論公園の輪郭は輪郭で重要なのですが、そうしたものの周辺といったときの広がりをもう少し大きく捉えて調整しながら、総合サインにも盛り込まれるように作っていければということかと思えます。他にもいかがでしょうか。

○榊原委員

- ・資料2の一番上、「市民に喜ばれるという視点」ということで、訪れてゲストとして喜ぶということがあるのですが、ホスト役としても嬉しいというか、自分達が活動することで、喜びを感じるという意味では、ゲストとして市民に喜んでもらうだけではない視点が欲しいと思いました。市民も魅力づくりに関わるところで、関わるのが喜ばしいという視点を少し加えていただければと思いました。

○本江座長

- ・もう少し具体的に言うと、市民がホスト側に立ってというと、どんなことがありますか。

○榊原委員

- ・例えば、博物館には既にガイドボランティアさんがいらっしゃいますし、あるいは、市民活動と連携というところで、色々なプログラムを提供する側にもなるでしょうし、そういったこの施設にも関わるといいうところが欲しいと思います。

○本江座長

- ・そうですね。最初に、例えば野鳥を見られますというお話がありましたけれど、バードウォッチングサービスを市が提供しないといけないと思うと、ちょっとハード

ルが高いですけれども、それはやっていらっしゃる市民の方々がいらっしゃるから、一緒に集まっていただいて、その人たちに教えてもらおうとか。そうすると舞台をいただいて、野鳥に詳しいそういう方にも出番があって、場所を使えるし、お客さんとして来た人にも楽しんでもらえる。エンゲージメントというか、コミュニケイトというか、市民自身が内容を盛りたてていくことに関わるようにする。

- ・具体的にはできるかどうかわからないけれども、部室みたいなものがあるって使えるといいとか、ロッカーぐらいになってしまうかもしれませんが、そういうものにするとか、市民団体が提供するプログラムの中に時間割みたいなものがあるって、何時頃からこれができますよとか、積極的に使えるようなやり方をできるといいなという話でしょうか。

○榊原委員

- ・今このエリア全体と言っているのだから、公園センターに限らず、というふうに捉えているので、そういった意味では、どこに今言った部室があるのかというのは、また公園センターの中とは別なのかもしれませんが、エリア全体ではただ訪れるだけではなくて、ホスト役にもなるという視点をぜひ盛り込んでほしいと思っています。

○本江座長

- ・ここに行くとなんをやっているか一通り把握できて、夕方もう一回来ればこういうものがあるだとか、そういうことがわかるような場所になっているといいし、お客さんとしての市民だけではなくて、そのサービスを提供する主体としての市民活動ができるといいということでございました。大事な視点かと思えます。いかがでしょうか。

○鈴木委員

- ・資料2の機能の(2)の飲食・休憩機能のところ、四角の2つ目で「飲食施設は…」という記載がありますが、資料3には載せていただけてますが、ぜひ地元の企業のカフェなり、飲食業が東京資本ではなく、地元のところが文言として資料2の方にも入れていただきたいということがひとつあります。
- ・仙台の商工会議所の青年部の有志で、仙台市と共催で、タイフェスティバルを毎年6月に開催しております。今年は2日間で5万人という多くの方にきていただいて、もう少しイベントを広げようかという話があります。勾当台公園の市民広場でイベントがたて続けに予定されている中で、市民広場以外と考えたときに、国際センターの展示棟なども候補としても挙げたときに、公園センターの前の中央広場で、買ったものを持ってきて食べることができる。市民広場以外で、仙台はフェスのようなイベントの開催が多いので、勿論景観を大事にして、汚く使うということでは

なくて、そのように使い方が広がる場所ではないかと感じておりました。

○本江座長

- ・確かに市民広場はいつも人がいっぱいですし、何かやろうと思った時に場所がないと、せっかくの企画も台なしになりますし、そこは街中で舗装はハードペイブのかちっとした場所で、こちらはもう少しゆるくて広くて傾いているというか、地形もゆるやかにあって、植栽というか緑地でということで、キャラクターが異なっていると思います。むしろ何か思い立ってイベントをやろうとする人が、一番相応しい場所を選べるような選択肢が色々あると良いので、その中の一つとして、地下鉄でも来れますし、基本的なトイレなどの施設はセンターできちんと確保できるので、あまり心配せずに、色々な事がやれるということで、周辺地域の人がたくさん来るということの施設として使えると思います。
- ・公園も1人2人でぶらぶらとするだけではなくて、色々なイベントを行うための場所としての役割が非常に大きくなっていると思いますし、そういう場所として公園を使うというのは、皆さん共有されつつあると思っております。そんな位置づけもできると良いですね。アクティビティを強化してということでした。
- ・資料2と3の役割分担はそんなに厳密なものではありませんので、あとで出てきますが、今日は最終回なのに何となく資料が中途半端ですけど、これをまとめてもうちょっとがちっとした、懇話会としてはこういう話が出ましたよということをもとめる必要があるとは思いますが、それは改めてご相談いたしますけれども、こっちだけが出て行って、こっちは詳細資料として残るということではないと思います。
- ・他はいかがでしょうか。追加でのお話でもいいですし、念押しのようなことでもかまいません。あるいは表現がこれだとちょっと、誤解を招くですとか、強すぎやしないかとか、弱いとか。脇坂委員いかがでしょうか。

○脇坂委員

- ・その後の事項ということになりますが、ニュースでも少し出ておりますが、国の方で都市公園法の改正の検討を今進めているところです。例えば公園の協議会のようなものを法定化しようとか、民間利用の際により公園に投資し易くなるようなことを考えようとか、ここ数年どころではないくらいのスピードで改正をしようとしているところです。
- ・まだ詳細が表に出ているわけではないのですが、公園センターをつくるタイミングと新しい法制度が動き出すタイミングが一致していると思いますので、そういう都市公園をどんどん民間に開いていこう、地域を活性化していこうという流れに沿った形で、設計するだけではなくて、ソフト面が大事で、例えば今回これを機に青葉

山公園の関係者の協議会を作って、マネジメントについて考えていくなど、そういう動きと合わせて進めていくと、変わったなという印象が出てくると思います。前回の懇話会までには、まだそこまで改正の動きが表に出ていませんでしたので言えなかったのですが、そういった視点で進めていただければと思っております。

○本江座長

- ・公園の使い方を民間にも開いていくというお話は、途中の会でも民間活力の導入ということで、言葉は硬いですが、上野公園にスターバックスがありますとか、富山環水公園の例が出ていたりしましたので、まさに制度が変わっていくのとタイミングをうまく合わせると、そういう一番最初の事例のひとつとしてやっていけますから、スタートアップを推している仙台市としては、そういうような場所としても使えるとすごく良いと思います。
- ・資料に具体的なプロジェクトの時間割、スケジュールのことがきちんと載っていないというのが、やや弱点でもあり、でも今動いているところでもあるので、あまり決めたくないということもあって、あえていつオープンを目指してつくりますということは、少し曖昧になっています。これは意図的にされているものだと思いますけれども、今脇坂委員のご指摘のあったように、うまくその辺の波頭を捉えて面白い形で、面白い形でというのは、この趣旨をより強化するような形で、ハードウェアだけではなく、その使い方についてのアイデアを盛り込みながらやる。だんだんプロジェクトが複雑になっていくわけですが、でもそのくらいのことはしていけないと、つくる甲斐がないなということだと思います。その辺の動きについてもまた、具体化のプロセスの中で教えていただければと思います。よろしくお願ひします。宮原先生いかがでしょうか。

○宮原委員

- ・今日こちらの振り返りを拝見しまして、出るべき意見といたしますか、皆さんの意見が随分ときちっと込められていて、今ご説明をお伺いしながらいろいろと納得をしておりました。
- ・文化財との関係のところ、今回はこの片倉小十郎さんのお屋敷の復元は難しいということと、それから意見の中で、特に資料の2の方は、3. 施設整備についての片倉屋敷など歴史的関係性ということで、これと資料の3の方の5ページの(2)文化財の視点、これを読んでみると若干の印象なのですが、最終的にできてくる建物とかデザインが、武家屋敷風にすると、小十郎さんの屋敷跡を復元したと間違えられるので、それはまずいのではないかなというご意見とか、そこからの考え方がかなり強く出ていると思います。そのことと、広瀬川をはさんで、大橋から武士の世界と、手前の町民の世界と、二つの世界観をここで何か表現できないか

というひとつのコンセプトがあって、仙台の都市割りを考える上で、私は重要だと思うのですが、そういった表現が何となく矛盾している部分があるので、最終的にどんなデザインになるのか若干心配なところがあります。

- ・資料2の最後ですが、施設整備の設計の進め方の工夫、最終的には発注者の側で、具体的にこういうデザインにしてくださいというのではなくて、色々な設計者の方にコンペを通じて、多分きちっと相応しいものをつくってもらえるだろうと意見では書いてありますが、これも最終的に建築家まかせになってしまって、なにか凄いものができてしまったというのは困るので、表現の仕方もありますが、やはり市側がリードしながらということは必要です。最後の「市民のプライドとなるような公園センター」は、とても良いと思います。ここを目指せるように、きちっと設計やデザインをしていくべきということを、懇話会の方から打ち出していただくと良いと思います。

○本江座長

- ・最後のところもそうですし、建築家にちゃんと仕事をさせろと僕も言ったことですので、そこは大事なところであると思っているのは変わらないのですが、発注者が丸投げで建築家に好きにやらせておけばいいのだというふうに読めなくもないので、ちょっとここは慎重にしないといけなかなと、改めてご指摘があったとおりでと思います。
- ・いろいろな公共事業の設計が今揉めておりますので、こういうとあれなのですけれども、僕はどちらかというと設計者に同情的な立場ですので、発注者のガッツが足りないというか、発注者がもっとキリつとしないといけないところも沢山あるんですよね。丸投げしておいてちゃんとやっていないと、後で怒るみたいなことだといけないので、今おっしゃったとおりで、発注者がいろいろ細々と指示するということでは無くて、任せるところは任せるのだけれども、どうすべきなのかということについてきちんとやる、そのための会をやっていくということですので、その発注者の責任とできあがるものに対する具体的なイメージを持っていることが必要なことなので、そのバランスをとった記述の仕方が必要だなというのはご指摘のとおりです。
- ・あとは全体として歴史的な価値を持つ空間であるということは疑いの余地がないので、その辺についての記載がちょっと弱くて、建物の形のことに矮小化されてしまっているように見えます。確かに議論としては、もう少し幅広くあったように思いますので、その表現も必要なことと思います。

○宮原委員

- ・この懇話会の中で、特に片倉小十郎の屋敷復元にこだわっているわけではないと思

います。それが逆に強く打ち出されているような気がします。復元はできないとか、それから一旦その歴史風の建物を建ててしまうと、それが小十郎さんのあたかもお屋敷であったように誤解されるのではないかという、そういった側面が凄く強く出ているような気がします。

- ・それが最終的にはデザインだとか、具体的な形になったときに、そこが強く打ち出されると、逆のイメージになるというか、もっとこう伸びやかにその土地の特性を活かした形のデザインということ、もう少し詰めて考えた方が良く思うし、ここにも書いてありますけれども、歴史的な性格が情報としては後年発掘をしたりとか、いろいろな作業の中で明らかになれば、それはその時にきちっと表現していくべきだと思うので、そこら辺はちょっと切り分けて今回やっていかないと、中途半端なものになってしまうおそれがあるような気がしました。

○本江座長

- ・歴史的な判断というところのお話が続いておりますので、籠橋先生、ご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○籠橋委員

- ・文化財の保全・保護というところには引き続き十分にご配慮をいただくということで、こちらの振り返りの方にもきちんと入っているので、その点は安心しているところですが、改めてお願いをしておきたいと思います。
- ・本物というキーワードが大分出てきておりますが、そういった意味で唯一の本物は遺跡ということになります。遺跡の保全・保護、特に今後の整備というものが見込まれる場所というところについて、今、建物の部分だけは発掘をしました、そこではある程度は遺構というものは確認はできるけれども、復元に至るところにはいつていないと、それは良くわかったのですが、それ以外のところで、例えばその前庭部であるとか、後背部であるとか、そういったところは発掘していないわけであって、その部分について過剰な、要は地下にまで及ぶような工事なり開発をしてしまうと取り返しがつかないこととなりますので、この点を十分に注意をしていただきたいということをこの場で重ねてお願いをしておきたいと思います。
- ・先ほど宮原先生がおっしゃいましたけれども、その後の段階でまた遺跡の発掘などが行われて、その成果が新たに盛り込まれるということも、十分可能性として見込まれますので、その点大事にさせていただきたいと思っております。
- ・それから「城下町と仙台城を繋ぐ中間点」という表現ですが、こちらの詳細な意見（資料3）の方を見ると、なるほどとも思います。あの地域というのは、お城の中というようにも考えられます。位置づけとしてはこれから使うこの公園センターとしての機能としては十分にそういうような位置づけとして問題は無いと思うので

すが、歴史性ということで考えると、あそこはお城の中というところと、それから武家屋敷地というような両方の、これはあくまでも繰り返すというところになりま
すけれども、そういったところであるということもまた踏まえなくてははいけない。

- ・いわゆる町人町と、武家町との接点だというような理解ではなくて、これは現代的な意味でのというところを押さえていくのであれば、仙台城の公園と、それから現代の都市というものとの結節点だという形であれば、その理解というのは大変正しいと思いますし、そこから機能展開していくという意味では、その意味こそがこの公園センターの最も目指すべき点になるかなと思います。
- ・城下町と仙台城というと、そのところで歴史的な意味としては問題が発生しかねないというところで、ちょっと懸念されるなというようなところでは
- ・あとは拝見していると、お祭り紹介の部分が少し浮いてしまうかなという気が、この全体を見ていると思っております。先日、三国港という福井の方に行った時に、山車の復元というのをやっているところがありました。現代も山車を引きまして、町の人達が山車をやっているという有名な町なのです。そちらでは山車の保存というのは、基本的には町方に任せる、要は町民が自分でやっているものです。これを歴代ずっと、伝統としてやっていて、その伝統の上に乗って、今も山車のお祭りというのが、盛大に行われている。これが本来のお祭りの中での山車の在り方ではと思います。一つだけ非常に巨大な山車を資料館に納めて大きく展示をしているのですけれども、それ以外の現役の山車というのは、全部町で持っているものです。使っている人たちが自分達で守って、それをハレの日に引き出して、どうだ凄いだろうと見せるのが、山車の本来の在り方ということを見ると、公園センターでの山車の展示をどのようにすべきかということは、相当考えた上でやらなければならない。先ほど言ったように、立地が城下町の、ある意味で城下の重臣屋敷ですから、城下町の中でも武家屋敷の1丁目1番地というところがこの場所であって、そう考えるとそこに町人の町という、本来は身分的に相違する性格のものを置いてしまうのは、面白いところもありますが、歴史的には少し難しさというものを感じざるを得ません。
- ・ぜひ仙台市の博物館、仙台市の歴史民俗資料館、文化財課とこういったことについて、相互に十分に内容の検討を、柔軟にさせていただいて、その上でいろいろと考えて決めていただければと思いました。

○本江座長

- ・ありがとうございます。ミクロのことと、大きい対極的な城と町の関係のことといい、同時にいろいろとお話をいただきました。埋まっているものこそが本物だということは、全く重要なことで、いろいろ掘り返したり、不用意にやるなということでもあります。また、きちんと調べられているところは限られている、というお話も

ありました。川との関係を幅広く使いたいということと、そのことと、かといって全部きっちり調べるのは、なかなか難しいということもあります。

- 今は局地的にしか調べていないので、我々が現在できることは、遺構を駄目にしないということで、そうっとしておくというか、その辺の態度は、別に建物だけではないですから、いろいろなやり方で気を付けなくてはいけないということを、十分に留意する必要があります。これも建物だけの話ではないということと、その武家と町の関係で、武家屋敷 1 丁目 1 番地だというお話は面白いと思って伺いました。橋を渡ったところが町家、町民地でという、その間のところにある関係をきちんと示す。
- お祭りは町人のもので、それが武家屋敷のど真ん中に置かれるということには、違和感があるというお話は勿論そうで、成程改めて聞くとそうだなと思いました。だから入れないのか、というとそうでもないような気がします。歴史的なものだから一色単にそこにおかれるというのは、やはり良くなって、本当はこういう町人がやっていたことがここにあることには、少しおかしなところがあるのだけれども、でもあるというような、その説明の仕方というかデザインの仕方というか、あるいは役割としてきちんと分けるべきだということが、そうなるでしょうし、もう少し広範な議論がいるのかもしれないなというのは改めて思いました。
- そういったソフトづくりでも、ここだけで決めないで、スペースが空いているから飾ったらいいじゃないということではなくて、仙台市全体の文化政策として、博物館や資料館ときちんと共有をして、どこに置くのか相応しくて、やはりただ見てもらうだけでは無くて、どこで見たかということもとても意味があることですから、それとの関係も吟味することも折り込んでおかないといけないのかなというふうにも思いました。
- 他の場所もあり得るよねという話もありますし、積極的な位置づけとデザインが考えられれば、ここにあるのがまた、あり得ることだとも思いますので、そのことも含めて具体的なプログラムが必要なのかなというふうに思いました。ありがとうございます。
- 大体皆さんのお話をいただいたかと思えます。まだ何か補足がございましたら追加をいただければと思いますので、いかがでしょうか。今日の一番最後に皆さんから一言ずつご意見をいただくというのが残っておりますので、全体の総評は終わってらしていただくということを少し念頭に置きつつ、もう少しお話がありましたらと思えますが、いかがでしょうか。
- ではもう少し先に進むと、ひとつ、一番最初に議論をしたけれども、具体的にしなかったことは名前です。公園センターという名前は駄目だねということで、満場一致だったのですけれども、では何にしたらいいかという議論は、あまり具体的にできないまま今日が来ていて、それをまた急にここでやっても何か決まるような気も

しないのですけれども、どんな呼び名というか、コンセプトを一番凝縮したものが名前であるかもしれません。

- ・何か名前について、この名前はどうかという話でもいいですし、こんなふうに決めたらいいのではないかとか、こんな候補があるとか、少しアイデアを頂戴できればと思います。今日決めたいということではないので、何かあれば。いかがでしょうか。名前、違和感はありましたが、言っているうちに慣れてきたという気もしないでもないですが、何かご意見がありましたらいかがでしょうか。榊原さんどうでしょうか。

○榊原委員

- ・やはりこの機能を考えると、青葉山公園全体、エリア全体のゲートという言葉、玄関口、エントランスという言葉もこのコンセプトでは使っているので、そういうニュアンスを含んだものが良いと、漠然と思っていました。

○本江座長

- ・何かこう目的地ではなくて、そこからいろいろな所に行くよという感じですよ、エントランスと名付けるとか、ゲートと名付けるとか。言葉というよりは、その意味合いとして、一旦まずそこに行って、そこから出ていくよという感じが盛り込まれるといいかなというのは、まさしくそうかなと思います。
- ・懇話会の最初の方では、公園センターは、追廻のこの辺の中のセンターという感じだったのですけれども、だんだん議論をしていくと、大橋も含めて、あるいは山の上も含めて、大きな青葉山全体の中の一つの出発点で、先ずここへ来てそこから出て行きましょうというようなことが確認されてきたところだと思いますので、そういうニュアンスが入って来るといいかなと感じています。
- ・何か確定的な名前のアイデアを出せということではなくて、こういう感じを含んでいると良いのではないかという言い方で良いので、それは何か相応しいコピーライターを雇うとか、本当はしなくてはいけないかと思いますが、名前についてこういうことはどうかというものがありましたら、お願いしたいと思いますが。鈴木さんいかがでしょうか。

○鈴木委員

- ・イメージとしては榊原さんがおっしゃっているようなイメージですが、選び方ですけれども、ぜひ例えば学校でこういうイメージで仙台市としてはこういうことをやっていきたいんだというのを、何回かワークショップを開いて、次の世代の人達に公募をして決めてもらうなど。次の歴史に、未来に繋がるようなものを、若い世代が考えてくれると素敵だなと考えています。

○本江座長

- ・はい、公募をするとかですね。愛称と名称はちょっと違いますよね。何か「アエル」とか、そういうのを付けるのと、施設名を付けるということはちょっとニュアンスが違うことなので、今は両方考えられますね。何らかの愛称をつけるものだと思っ
てもないようにも思いますし、無い施設も沢山ありますから、それはそれでいいの
ですけれども、そここのところを考えるということであるかも知れません。もうひと
方伺いしましょうか。では稲葉さんよろしくお願ひします。

○稲葉委員

- ・格好良い名前も良いと思うのですが、例えば札幌の大通公園とか、京都の鴨
川とか、その場所一帯を示す地名みたいなものなんですよ、それがそのまま場
所のようになっていて、「ちょっと鴨川行く？」とか、「今日ちょっと大通公園で何
か食べていこうよ」とか、そういう日常の中に地名が入っていたらいいと思いま
す。ただ、ここを表すのに、青葉山というとなそこ全部となりますし、ここを表す
言葉がちょっとあまり思い浮かばないので、何かすごく身近な感じだと
良いと思いました。

○本江座長

- ・では最後に齋藤委員に。

○齋藤座長

- ・ネーミングそのものは今思いつきませんが、先ほど榊原委員もおっしゃっていた
ように、やはり全体の中のエントランスという広がり、入口というイメージです。

○本江座長

- ・ありがとうございます。そのようなところですね。名前は決まらないまま終わると
いう感じだと思いますが、もっと相応しい名前があるような、愛称もつけるのかど
うか、そんなに目的地ではないから、この施設がすごい名前を持っていて、そこ
に行こうというよりは、そこに先ずは寄って公園に行きましょうとか、周りに全部行
きましょうということだから、集合場所としての名前は必要なような気がしますけ
れども、どここのホールでというような、施設の名前がいるかもしれないけれど
も、何かあまりそんなに強い求心力を持った名前ではなくてもいいのかなとも思
います。
- ・という複雑な注文をつけながら終わると、仮称ですので。この命名の話がどうい
ふうに定まっていくなのかわかりませんが、

○榊原委員

- ・国際センター駅の「青葉の風テラス」については私どもでその名称の選定に携わっていました。あの場所が完成する前には、「青葉の風テラス」は絶対につかない名前だったと思います。というのも、芝生のデッキから見たときに、青葉を感じる、風を感じるという、それが評価をされて、「青葉の風テラス」という名前ができた。まさにピッタリだなと後から考えると思います。役割から考えていく方法と、空間ができていて、スペースが設計された後に、市民の皆さんに、愛称という形で公募をするという方法も、当然あって良い話だと思うし、子ども達限定で、それこそ未来に繋がるみたいな話でやっても良いと思います。多分、行政だと正式名称が何とかというのを走らせて、その愛称を別途つけるということがあると思います。愛称と施設名との兼ね合いをどうするかということだと思います。
- ・国際センター駅の「青葉の風テラス」という名称は、少しずつ定着しつつあるなど思っているのですが、今決めなくてもいいか、できてから愛称を決めるということでも良いと思います。

○本江座長

- ・しばらくは仮称のまま引っ張る。まあ公園センターでも良いのではないかという気がしないでもないですが、課題はあるかもしれません。
- ・ただ、博物館があって、国際センターがあって、センター、センター、センターとみんなが名乗ると、何か連携をしていきたいと思いますということではなくて、こっちのは俺がセンターで、あんたはそっちという感じのものが並んでいるという体になってしまうので、みんなをまとめるものであるというときに、センターと名乗るのはちょっと良くないかなという感じは漠然とあって、そこにはちょっと抵抗があるなというのが、私の思うところでございます。別に良い名前があるわけではないのですけれども。違和感があるとするとそういうところでございます。はい、よろしいでしょうか、名前のことは。結論はできませんけれども、大体こんなところでございます。
- ・それではよろしければ今日の議題は、振り返りと今までの議論の整理を確認することでございますので、資料1、2、3とあって、皆さんから改めてご意見を伺いました。ちょっと曖昧だったところを確認するようなご意見が色々出て良かったかなと思います。
- ・今日は最終回ですので、事務局からもお話がありましたが、先ほど申し上げました、まだちょっとまとめのメモみたいな体の資料になっていて、懇話会最終4回やって、こういう議論になりましたという形にするには、ちょっとまだ弱いところがありますので、事務局とも相談していたのですが、取りまとめにもう少しお時間をいた

だいた方がいいので、この先は取りまとめについては、皆様のご同意がいただければ事務局と私とで詰めさせていただいて、当然変なことを言ったりはしませんので、今までの議論を取りまとめた報告書というのにする作業をやらせていただければと思いますが、皆さまいかがでしょうか。

※（委員より同意の声）

○本江座長

- ・ありがとうございます。では、最終的なものを報告書にまとめるという作業を、事務局と私がチェックをしながら行いたいと思います。

3. その他

○本江座長

- ・最後ですが、その他でございますので、事務局から何かございますでしょうか。

【阿部主幹より参考資料についての説明】

- ・参考資料を御覧ください。これまでの議論の中で、大橋からの見え方、大橋と一体的なデザインとすべき、といった大橋に関連するご意見をいただきました。現在、道路部で進めております大橋の改修工事について、ぜひ委員の皆様から参考となる意見をお伺いできればということで、本日担当課が同席しておりますので内容を説明させていただきたいと思います。

【大橋の防護柵の改良についての説明】

（道路保全課による資料説明）

○本江座長

- ・ありがとうございます。大橋は、古い、愛されている橋ですけれども。造った時の基準でできているので、簡単にいうと手摺が低い。防護柵が低いので、もう 20 cm 足したいというお話でございまして、どうしたら良いかという事ですね。
- ・まあデザイナーが決めれば良いだろうということだそうですねけれども、でも歴史的な位置付けの中で、この大橋からのアプローチを重要視しますよということも、議題の中で出てきておりましたから、あまり不用意なことをやってもいけないと思います。
- ・これもさっきの名前とっしょで、こういうデザインが良いですよというのは我々の立場ではないと思いますので、こんな感じだと良いとか、こういうことを大事にしてもらいたいとか、何か方向付けのヒントというのか、概念がいただければとい

う趣旨かと思えます。

○宮原委員

- ・イメージの①と②のところなのですが、この橋の外側というのか、これは石か何かを貼るのですか。

○道路保全課

- ・今回まだ全部を決めているわけではないのですが、今の高欄はコンクリートのものできております。なのでその上にあげるとなると、あまり重いものを載せることはできないので、できれば鉄製かなというようには考えております。ただし、表面をコンクリートに似たような仕上げにするというのは可能なので、現在はそのような、イメージで考えています。

○宮原委員

- ・デザインはできるだけ歴史的といいますか、この地域に合うようなイメージが本当に良いと思えますし、そうしたイメージにしたことで、今回目標にしている、自転車に乗った男性の方が転倒しても大丈夫な、そんな機能がしっかりと持たれていれば良いのではないかなと思います。

○渡部委員

- ・県外に住んでおりますが、初めてここを訪れた時も、公園センターができる所をこの橋を渡って見させていただいて、この橋も非常に重要だと思ったところです。
- ・この橋自体は、文化財とか遺産などには指定されていないのですね。でも非常に歴史があるということで、この元々のデザインをしっかり残しながら、橋の上からの見え方も重要ですけども、河原からの見え方も重要だと思いますので気を使っていたきたい。
- ・気になるのは、安全上の対策ということで高さを上げなくてはいけないのは仕方がないのですが、例えば、歩いている人は、子供さん以外は、視点が欄干より上に出ると思います。車からだ、ちょうど目の高さくらいになるような感じがして、そういったところの見え方も気を配っていただきたいというのがあります。
- ・また、これは新しく付け加えるものですので、元々のデザインに対して似たようなテクスチャーのものを付けていくと、新しいのか古いのかがよくわからなくなってしまいますので、軽くということであれば、鉄で済むのであれば、鉄のむき出しでも良いのではないかと思います。ただ、デザインはすごく注意しなくてはならないと思います。軽く、視界的にも遮らなく、かつ機能を満たし、かつ元々あるテイストにマッチする、非常に難しいことを簡単に申し上げているようで申し訳ないので

すが、そのようなデザインの検討をぜひやっていただきたい。当然この2種類というだけではないと思いますが、そういうことも検討していただければと思います。

○本江座長

- ・車からも見えますよね。他にどうでしょうか。

○籠橋委員

- ・上に載せるのではなくて、この欄干の外側に出すようにして、目立たないようにするという措置はできないでしょうか。上に出すと、渡部委員のおっしゃるとおり、新しいのか古いのかわからない物を付け加える形になるよりも、それを外側に出してしまって、その視界からはこの欄干自体はいじらないで、外側に安全柵を設けるという形で改善を図るような方向で考えられてもよろしいのかなと感じました。

○渡部委員

- ・構造的に厳しいものがあるのかもしれませんが、簡単にはわかりませんが、ひとつの考え方としてはダブルにするのはあると思います。慎重な検討は必要と思います。

○本江座長

- ・外から見られる時の姿もまた同時に大事なので、外側にわぁっと付いて、内側からはいいけどというようなことも、ありますよね。ガラスで作ったら良いというものもあるけれど、外だと汚れて、かえってすごい存在感になるから、細い線で作った方が良いとか。
- ・歴史的なものに何か足す時には、何か似て非なるものを、そうっと元からあったみたいにして付けるか、新しい物で足されましたというので、違うものとして付けるかというように、割と態度がはっきり分かれるところで、前者のように何事もなかったかのように付けるという、気付かない人は気付かないという態度もありますけれども、むしろ歴史的な物への尊重の一つの態度としては、新しいものは今までの物とは違うのだということで作る。この一か二かどちらかという話ではないけれども、あえて違うスタイルのものが足さされているというのものもあるかなと思います。

○脇坂委員

- ・この大橋は出来てから70～80年くらい経っているものですので、普通でしたら文化財的価値があるものだと思います。指定されてないというだけの話で。どれくらい文化財的価値があるのかという検証をまず行う必要があると思います。文化財になり得る価値がどの辺にあるのかというのを考えて、まずそれを整理した上で、防護柵の設置基準同解説を熟読した際に、こういう文化財的価値がある橋梁についての

防護柵においても改修時に 1.1m を確保しなくてはいけないかどうかということに次を考えて、3番目にその文化財的価値がどの辺にあるかということのを明らかにした上で、それに支障がないようなところで、この防護柵としての機能を満足させるというのが議論の順番だと思います。今一番心配しているのは、このコンピュータグラフィックスではきれいに見えるのですけれど、実際はエイジングされたコンクリートにそれっぽいものを加えると、違和感が出るというのはわかります。かといって、これは文化財ではない防護柵ですよという鉄パイプみたいなものをつけるのも、それもどうかと思います。いきなり工事で最後にとりつけるというのではなくて、順序としてはそういう検討が必要だと思います。

○籠橋委員

- ・脇坂委員のおっしゃったことで一つ思い出したのですが、確か平成13年ぐらいだったと思うのですが、県の文化財保護課がまとめた近代化遺産の時に、大橋を取り上げていた記憶があります。そちらの調査報告書を見ていただければ、ある程度見解が出てきていたかもしれません。あくまで情報提供です。

○本江座長

- ・今90cmでやってるわけですが、基準からは既存不適合だから直さなくてはならない、普通にやるとそうなるのだと思いますけれど、今のような価値もあつてのことだということでした。
- ・公園センターもつくって、大橋も含めて価値のある場所にしていこうということで、さっさと取り付けて適格にするということではなく、この懇話会で意見をきいておられるのですね。70、80年経っていて、当時歴史的な意匠を踏まえて造られたものに足していこうということですので、ミニマムな感じに見えるようにするのか、先ほどの脇坂委員が言われたように、手順を踏んで、高さ900ではだめなのかというの踏まえてやっていくというのも正論かだと思います。
- ・他にございますでしょうか。本会としては、以上のコメントでございました。よく検討してください。よろしく願いいたします。

○道路保全課

- ・ありがとうございます。

○本江座長

- ・事務局から他に何かございますか。特になければ、懇話会も4回やってまいりましたが、こうした形で集まるのは今回が最後ということですので、皆さんから最後に総評といいますか、この公園センターの整備、または広げて青葉山公園全

体の整備事業ということを行う場所で、公園について仙台市に要望とか助言とか、改めて念押ししたいこととか、言い残すことがないように一言ずついただいて、会を閉じたいと思います。稲葉委員からお願いいたします。

○稲葉委員

- ・皆様、たいへんお世話になりました。これから先どのようなものができるのかと、とても楽しみな4回でした。私からは、いろいろな観光施設であるとか、住民の方が集まる施設であるとかを見てきて、我々いろいろな事をたくさん言っているな、かなり要望が多いなと思います。これをどうまとめるのか、うまくまとめないと総花的なものになって、結局誰も行かないというものになってしまうので、そのようにならないようにするために、市民に喜ばれるという視点と、観光客が来た時だけに誰かを連れて行くどこかではなくて、普段から私達市民のいる場所がそこで、そこに「良い所があるんだよ」と連れて行けるような、そういう視点から考えていた方が良いでしょうなど、お話を聞いていてわかりました。
- ・3つの役目があるという中で、全部大切にしたいのですけれども、やはり「憩う」とか、市民の方が一番どこが楽しんでいただけるのかということを中心にして考えていけると良いと感じました。楽しみにしています。ありがとうございました。

○籠橋委員

- ・ありがとうございました。立場として歴史と、それから文化財というものから関わっておりますので、そういったところから少しでもきちんとしたものに出来上がっていけば良いと心から祈っています。
- ・私はこのエリアの目の前に職場があって、実は日常空間となっておりますので、そういった意味でも期待しています。日常で、今後この施設が出来上がって使っていくというのを、ずっと目にしていくことになるだろうと思っております。そういった意味でも心より今後の事を期待していきたいと思っております。どうもありがとうございました。

○齋藤委員

- ・懇話会の皆さんの意見は知見に富んだ意見だと思いました。立場の観光で見ると、青葉山一帯には「るーぷる仙台」が通っているのですが、瑞鳳殿、それから博物館、仙台城跡を廻るのですけれど、皆さん多分「点」として捉えて移動なさっているので、この公園整備によって「面」で楽しめて、そこから広がっていくようになると良いと思います。
- ・青葉山公園ということで、そこを一体的に公園と捉えて歩いたことがなかったのですが、この公園センターの整備でそういったことが市民にも理解されて憩いの場、

シンボリックな場になれば良いと思います。

○榊原委員

- ・私達は仙台セントラルパークということで、ずっと仕事をさせていただいております。先ほど脇坂委員から公園を運営する協議会の法定化のお話もありました。我々としてはやはり、対岸の西公園や東北大のキャンパス等も含めて広い意味でのパブリックスペースであるので、そういうスペース全体のマスタープランというか、市民も共有できる、セクターを超えてできるようなものがあると良いと思います。さらにはそこを運営する人達が協議会的な仕組みの中で物事を決めながら何か新しいことにチャレンジ、あるいは喜ばれる場所を皆でいっしょにつくっていくということができていると良いと思っています。今回の公園センターがその一つの役割を果たす施設としてなることを十分期待したいと思っています。引き続きよろしく願いいたします。

○鈴木委員

- ・こういう貴重な機会に、たぶん私が選任されたのは商工業というような部分だったかと思っています。意見が計画として上がっていくのか不安な面と期待感がありながら参加させていただきました。座長のとりまとめのすばらしさと、委員の皆さんのお話で、非常に貴重な機会に参加させていただいたことについて、感謝しております。
- ・普通の建物、単純に商業施設が建つということではなくて、歴史があってその上に未来につながるものをつくるという、その狭間の機会に意見交換ができたということがとても貴重だと思っていますので、ぜひこの4回の機会を、無駄にせず、意見を吸い上げていただきたいと思っています。
- ・私が商工会議所という立場にいないければ、こうやって仙台市の方が開かれた中で、市民の方といっしょに話をしながら進めていくということが見えづらい感じでした。こういうこと一つをとっても開かれた行政であることを、ぜひホームページや SNS を通じて市民に伝えていただきたいなと思いました。本当にありがとうございました。

○宮原委員

- ・本当にありがとうございました。地下鉄東西線の国際センター駅周辺の整備から、今度はこちらの青葉山公園のセンターの方の整備ということで、いよいよあのエリアの一番最後に残っていた部分をどうするかというお話し合いの中に入れていただいて、本当にありがたく思っています。
- ・今回いろいろな委員の皆さんから貴重なご意見をいただけたと思うし、私もそのとおりだなと思う部分もあり、市民のサイドから見てこの空間をどのように楽しん

でもらえるかという視点と、それからよその方たちがいらっしゃた時に、例えばここで、仙台である、仙台に来たという部分をしっかりと認識していただけるような、そういった両面があると思います。

- ・私は仙台に来て19年ぐらいになるのですけれども、仙台の市民の人は、仙台が城下町であるとか伊達政宗さんとかファウンダーの方に対する誇りとかがあまり感じられない気がします。今、観光だと例えば金沢とか、前田のお殿様と金沢城とそれから城下町というのは観光で一連セットになって認識されているのですが、仙台来るとそれがバラバラで、特に仙台城の歴史的なものは奥に奥に、本当に地理的にも奥なのですが、なかなか見えずらいのですね。今回こういった施設の中で、仙台というまちの来歴というか、なぜこのまちができたか、誰がつくったかという部分を気軽に知って市民の方自身もこの場所をとおして、「そうなんだ私達はそういった歴史を持った所に住む市民なんだ」という部分を大事にしてもらえるように、そういった整備をしていただければ良いと思いました。

○協坂委員

- ・この委員会に参加させていただきましていろいろ勉強になりましたし、楽しい委員会でした。私も仙台に累計7年くらい住んでいますが、この青葉山公園のエリアは、特別で敷居が高いエリアのような感覚がずっとしておりました。国際センターや博物館にあまり行かないんですね。なかなか馴染みがないのですが、よく考えると江戸時代の武家屋敷の片倉屋敷なども馴染みがあるわけでもないでしょうし、敷居が高かったと思います。その後の陸軍の第二師団も当然敷居が高くて、戦後も住宅になったりしました。ずっと敷居が高いままの区域で、てっぺんに伊達政宗像はあるけれど、敷居が高いような感覚がありました。榊原さんからここはゲートだという話もあったのですが、仙台城側から見ますと、ここからまちに開いて行くような場所になって、仙台市民がよりこの空間を身近なものとして感じてもらえれば、この施設は良いものになるのではないかと思います。

○渡部委員

- ・私は山形からの参加ということで、県外に住んでいる者の目線で見えていたのですが、皆さんの話を聴きながら、この場所が仙台の公園としても非常に肝ですし、歴史的にも肝な場所だという事をひしひしと感じました。仙台の方々の誇りになるべき場所と思いましたので、この公園の整備、センターの整備に非常に期待をしているところです。
- ・特に造園とかランドスケープの視点でも見させていただきましたけれども、自然の重層性、歴史の重層性があるって、ここには多様なコンテンツがありますが、私もこの懇話会をきっかけに何回か歩きましたが、当然一回ではわかりきれないですし、

非常に深いものを感じました。仙台の方々の中にも知らない方がいらっしゃるのだろうということもよくわかりましたので、ぜひ何回も訪れられるようなそういう場所にしていただきたい。空間も大事なのですが、ソフト面、コンテンツの部分が重要だと思いますので、ぜひ充実させていただきたいというのが意見です。ありがとうございました。

○本江座長

- ・出席委員の皆さんからの一言ずつお話をいただきました。最後私から特に大きく付き加えることがあるわけでもないのですけれども、皆さんのおっしゃったとおりでと思います。
- ・出なかったことでいうと地形も面白くて、山がちょうどいい感じの高さであって、崖があって、石垣を造った独特の登っていく降りてくる道があって、下にフラットな追廻のところがあって、そこが武家屋敷で、水面が低い広瀬川があって、街の中の川ってセーヌ川みたいに川面が見えるのが多いのだけれど、仙台は広瀬川の中流なので水面が少し低くて、あまり水面が見えなくて、でも落差のある河原があって、面白い景観をつくっていて、大橋が架かっている、こっちは街という、それが圧縮してあるのもそこを通り抜けていっただけで、断面でいうと仙台のいろいろなものが、地理的な重層性というお話を渡部先生がされましたが、そういうものが詰まっているところ。横に動いて行くと、博物館とか瑞鳳殿とかそういうものがずらっと並んでいて、密度が高くいろいろな物が集まっている場所として、たいへんポテンシャルがあるのにそれを結び合わせる物が何かないために、何となく散漫な感じになっていて、今回の公園整備はそれを結び合わせて、何かいろいろあったなということを改めて感じさせるたいへん重要な機会だと思うので、この計画はせつかくあるたくさん資源をバラバラのままにしておかないための大きな器をつくる大事な仕事だなということをお話の中で改めて思った次第です。
- ・それがハード的な事ですし、そのための真ん中に建つ建築は、やはり現代の建築として工夫を凝らした、歴史的な景観をきちっと引き受けるといっても現代的な建築の課題ですので、それを踏まえたものとしてつくられる。それで良い建築家を選ばなくてはいけないのはそうだし、そのプロセス自体が開かれていて、どんな建築にするかということ自体が議論になっていて、皆の期待が高まってつくられていくという、その設計プロセス自体をこの公園を良い場所に、市民にとって価値のある場所にしていくプロセスとして利用するというような事ができるといいのかなと思いました。
- ・基本コンセプトの冒頭に市民に喜ばれる場所にするよと、稲葉委員もおっしゃいましたが、お客さんを連れていく時だけ行って他は関係ないということではなくて、日常的に行って、行くと仙台市の人がとても楽しそうにしている。これ以上の仙台

のプロモーションの景色はないので、「いい所だな、仙台は」と皆が思うような場所になると良いと思いました。そのようなことで議論をすればするほど重要なポイントで、ここできちんと良いものをつくることで、仙台の持っている資源の現れ方といますか、何倍にも強化ができるのではないかと考えている次第でございます。

- ・これからとりまとめをしますけれども、この先にアイデアを具体化していくプロセスが待っていますので、そこに期待をしたいと思えますし、委員の皆さんには引き続き暖かい目で見守っていただけて、チェックをしていただければというように思います。ありがとうございました。
- ・議事は一応これでおしまいでございます。事務局にお返しします。

○阿部主幹

- ・委員の皆様のお手元に、「仙台ふらら」という冊子が届いていると思いますが、これは稲葉委員の方から提供があったものです。

○稲葉委員

- ・この3月まで観光課さんのお仕事をお手伝いしました。今、全国的にまち歩き旅が流行っております。仙台も歴史に詳しいボランティアガイドさんがたくさんいらっしゃいます。もう少し日常的な目線で新たなまちの資源を発掘をして、ガイドができる人を育てようということで実施しました。ここに29のコースがありますが、市民の方が考えてくださったルートです。こういったものを参考にして今後できる公園センターの方でも、そこが出发点になって地形の面白さを体感しながらお城に登っていくコースですとか、橋のこちら側から向こう側を見るコースですとか、そういったところがあると良いと思っています。
- ・先日私もこの中のコースを一つ一緒に歩いてきたのですが、皆で広瀬川の対岸から豆粒のような伊達政宗像を見るという体験をしました。仙台市内の方が多く参加をしていましたが、「こんなふうに見えるって知らなかった」とおっしゃっていて、そのような新しい発見ができる市民の方がもっと増えていくと、この施設の中でも案内できる市民の方が増えてくるのではないかと考えています。ぜひ、これを参考にして歩いていただければと思います。

4. 閉会

(村上局長挨拶)

(阿部主幹閉会宣言)

(以上)